

1. 「亀山市教育大綱 基本方針—1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上をすすめる。

2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

3. 関中学校区 研究主題

自他の尊厳と多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成

4. 研究主題

自ら伝え、自らかかわる 加太っ子の育成
～豊かな対話をめざして～

5. 主題設定の理由

「自ら伝える力」「自らかかわる力」は、本校の子どもたちに必要不可欠な力ととらえ、研究テーマとして取り組んできた。授業では、ペアやグループで話し合いを深め、自然に教え合う姿が見られる。縦割り班活動においては、高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに対して、分かりやすい説明や寄り添うような声掛けができています。このように、授業や全校での活動の場面では、相手に分かるように話したり、友だちを気遣って声をかけたりする子どもたちの姿が見られるようになり、一定の成果が得られた。

その一方で、様々な場面で受け身的な姿があり、与えられた役割を果たすことはできるものの、自ら進んで課題を見つけ、仲間と協力して課題を解決しようとする力は定着していない。また、みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査等の結果から、論理的に考えたり、根拠を明らかにして説明したりする力が弱い傾向があることが明らかになっている。

これらの課題を解決するために、本校ならではの少人数学習や合同授業、わたり授業、異学年集団での関わりといった特色を活かして、子どもたちが主体的に活動や学習に取り組める場面を意図的に設定する。研究領域である算数科においては、学習リーダーを活用した授業を展開し、「主体的・対話的・深い学び」にもつながる「自ら伝え、自らかかわる 加太っ子の育成」をめざしていく。

6. 研究主題～つきたい力～について

《 自ら伝えるとは 》

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにしてまわりの子に伝える力
- ・まわりの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じた時に、それに対して声を上げることができる力

《 自らかかわるとは 》

- ・場に応じて、自分で考え、進んで行動する力
- ・相手の思いを受けとめて、相手の立場に立って行動する力
- ・他人事ではなく、自分のことと重ねて考えて行動する力

～ 豊かな対話とは ～

- ・自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる。
- ・語彙が豊富で、時と場合に応じて使い方を考え、表現できる。
- ・子ども同士、教職員や地域の人との関わりを深め、自分の考えを広げ深めることができる。



7. 研究領域

算数科

8. 具体的な取り組み

(1) 授業づくりについて〈今年度までに積み上げてきた「加太スタイル」をベースにして授業を行う。〉

《 加太スタイルとは 》

○個々の子どもに対する具体的な支援をする。

- ・視覚支援やワークシートの工夫などをする。

○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の設定をする。

- ・学習に見通しをもてる「めあて」を設定し、「ふりかえり」として求める内容を明らかにして取り組ませる。

○「活動カード」の提示で見通しをもたせる。

- ・授業の流れにそって「活動カード」を活用し、子どもたちが、自ら活動に取り組めるようにする。

○ねらいに即した学びの形態を活用する。(ペア・グループ・一斉)

- ・目的に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ、学びを深める。

○ICT 機器を活用する

- ・子どもの思考を可視化し、それぞれの意見を比較・分類しながら学びを深める。

○学習リーダー (GL) の活用を進める。

- ・低学年から段階的に学習リーダーを育成する。学習リーダーの役割や学習の進め方を理解させるとともに、他の児童にも学習リーダーに協力する態度を育む。

< 学習リーダーの活用例 >

- | | |
|--------------------|---------------|
| ・授業の初めに、活動の流れを伝える。 | ・問題の答え合わせをする。 |
| ・新出漢字の学習の司会をする。 | ・学習を進行する。 |

○対話を深めるための「話し方」「聞き方」を定着させる。

- ・「聞き方」「話し方」「対話」チェックシートを活用して、全職員で子どもたちの目指す姿を共有し、実践を重ねる。また、毎月、到達度を振り返る。

① 研究授業を軸に日々、実践を重ねる。

- ・算数科における視点児童を設定し、手だてが有効であったかどうかを考え合う。
- ・事後検討は、参観の視点にそって意見交流し、子どもと指導者の「よさ」と「課題」を明確にする。
何を学び、学んだことをどう生かすかを常に意識する。(研修の自分化)
- ・1・2学期中に1回ずつ互見授業週間を設定し、参観後、必ず授業について意見交換を行う。

②個々のスキルアップを図る。

- ・関中学校区の公開授業に1回以上参加する。
- ・意見箱を設置し、各教員の疑問をもとに定期的にOJTを行う。

③人権教育カリキュラムやふるさと学習指導計画の検討を行う。

- ・人権教育アライメント事業の研究テーマをもとに、人権教育カリキュラムを設定し、年間通じて計画的に学習を進める。
- ・人権サポートガイドブックを活用する。
- ・ふるさと年間指導計画をもとに、地域の方々との対話を通じて、子どもたちが学ぶ喜びをもち、主体的に学習に取り組めるよう学習の内容を工夫する。



(2) 子どもたちが言葉の習得を進めるための手立てについて

- ①手元に「言葉の宝箱」を持ち、様々な教科等で積極的な活用を促す。
- ②辞書を積極的に活用させる。
- ③学 Viva やたしかめプリント等の各種プリントを活用する。
- ④様々な教科等での対話の場面を充実させる。

(3) 学級づくり・集団づくりについて

- ①個々の子どもをていねいにみつめる。
 - ・Q-U アンケート・仲間づくりアンケート・教育相談を各学期に1回実施し、児童理解を深める。
- ②心にとめる子どもを中心に居心地のよい学級・学校づくりを行う。
 - ・各クラスで一人、心にとめる子どもを設定し、その子とクラスの児童や全校児童のかかわりを見つめる。その際、「周りの子のかかわり方を変える」という視点を大切にして、学級・学校づくりを進める。
- ③日ごろから、教職員が連携し、加太小の子どもたちを育てる。
 - ・クラスの枠を超えて全校児童を全ての教職員で育てるという意識をもつ。報連相を密にし、課題が出てきた場合は、即座に子どもの理解委員会を開き、具体的な手立て・方向性を考え合い、指導を行う。
- ④保護者とのつながりを深める。
 - ・生産体験学習や家庭訪問等、保護者と顔を合わせる機会を利用して対話を充実させる。連絡帳や電話、家庭訪問など、日々の連絡をこまめに行い、保護者の思い・願いを受け止める。

(4) 学力向上にかかわって

- ①基礎基本の定着を大切にし、授業につなげる。

○あさかぜタイム

月曜日	全校読書
火・水・木曜日	1年生 … 現在の学習内容の徹底
	2年生 … think think 及び漢字学習
	3・5・6年生 … 国語短時間学習
金曜日	業前活動(なわとび、ソーラン)

○チャレンジタイム

自主学習の内容を充実させる。

○はなまるタイム

現学年の国語と算数の内容を習熟させる。

月曜日と水曜日の放課後を活用して、月5回、年間40回程度実施する。



②家庭学習の定着を図る。

- ・家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて4月当初に発信する。自主学習を紹介し合うことで、子どもたちの学ぶ意欲を高める。
- ・タブレット端末を活用するなどして、子どもたちの実生活と授業を結びつける。

9. 研究構想図

学校教育目標 仲間とともに豊かに学び、社会とつながる加太の子の育成

研修テーマ 自ら伝え、自らかかわる 加太っ子の育成
～豊かな対話をめざして～

＜自ら伝えるとは＞

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み、そこで生じた自分の考えを、根拠を明らかにしてまわりの子に伝える力
- ・まわりの子の発言を自分の考えと比べながら聞き、考えを深め、意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて、理不尽なことや疑問に感じた時に、それに対して声を上げることができる力

＜自らかかわるとは＞

- ・場に応じて、自分で考え、進んで行動する力
- ・相手の思いを受けとめて、相手の立場に立って行動する力
- ・他人事ではなく、自分のことと重ねて考えて行動する力

加太スタイルを意識した授業づくり 基礎基本を大切にした授業づくり

算数科

協働的に問題を解決する力

主体的に取り組む力

- ・個々の子どもに応じた具体的な支援
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の充実
- ・活動カードの提示
- ・ねらいに即した学びの形態（ペア・グループ・一斉）
- ・ICT 機器の活用
- ・学習リーダー(GL)の活用
- ・対話を深めるための「話し方」「聞き方」の定着

人権教育の推進
自分と仲間を大切にする子の育成

社会に開かれた教育課程の推進
地域・保護者の教育活動への参画

家庭との連携
生活習慣の確立・家庭学習の定着

教職員資質の向上
授業改善に向けた研修の充実